



直売センター「いぶきの里」運営協議会総会

2月26日(月)、直売センター「いぶきの里」運営協議会の総会が秋田拠点センターアルヴェで行われ、販売実績などが報告されました。昨年4月から今年1月までの来客数は約13万人に上り、販売額は1億7799万円の実績となりました。

令和5年度は大雨や酷暑などの自然災害が出荷量に影響しましたが、令和6年度は皆様に地場産品をより楽しんでもらえるように、イベントなどを例年並みの規模に戻して実施する予定です。今年度も生産者や従業員一同が、たくさんのご来店をお待ちしています。

📷 セールの集客実績などを振り返りました



春作業控え農機展示会にぎわう

春物農機展示会が2月26日(月)と27日(火)に追分農機センターで、29日(木)と3月1日(金)に雄和農機センターで行われました。各メーカーの最新型のトラクターや田植え機、管理機などが整備場内や農機センター前に展示され、多くの来場者が注目しました。播種機や健苗ローラーなどといった春作業に役立つ農機具も並び、生産者の関心を引きました。

生産者同士や農機センター職員、メーカーの担当者らが機械の性能や操作方法、農作業の状況などについて話を交わす姿が多く見られ、会場内がにぎわいました。

📷 トラクターや管理機などが並んだ会場

秋田市園芸振興センターの研修を終えて園芸生産に意欲

3月7日(木)、秋田市園芸振興センターの令和5年度冬期農業研修の閉講式が同センターで行われました。昨年10月から今年3月までの半年間に、第10期生の4名が園芸品目の栽培実習などに参加。4名は研修後も冬期栽培に意欲を見せ、修了証書を受け取りました。

19日(火)には秋田市新規就農研修の修了式が開かれ、第8期生の3名が農業経営の基礎を身に付ける2年間のカリキュラムを終えました。3名はこの春から独立就農し、秋田市内で野菜などの生産に励んでいます。

修了生のひとりの小野徳也さんは豊岩地区と山内地区でメロン、ホウレンソウ、ブロッコリーを生産し、当JAや直売所への出荷を計画しています。小野さんは「作物



の品質を一定に保ち、『また食べた』と思ってくれるリーダーを作りたい」と意気込みました。

同センターの鈴木善彦所長は「単なる農業者ではなく、農業経営者として消費者ニーズなどをフィードバックしながら農業を続けていってほしい」と修了生を励ました。

📷 1 …冬期間の園芸研修を終えた研修生ら
2 …2年間で栽培管理の技術などを身に付けた修了生ら
3 …修了証書を受け取り新規就農に意気込む研修生

